

第6章 障害のない勤労者の職業生活設計との比較

第1節 勤労者の職業生活設計の概要

——「勤労者の職業生活設計に関する調査」の結果から——

1. 職業生活設計のとらえ方

個人が社会の有効な構成員になっていく過程は、これまで「社会化」として理解されてきた。しかし、現代では理想的な人間像といえるものはなくなったため、有効な構成員とはどういうものかが、極めてわかりにくくなっている。この点について、斉藤（1991）は、社会化には2つの側面があるとしている。一つは文化伝達としての社会化であり、その社会の行動様式が、次の社会の担い手に受け継がれるという側面である。もう一つは、それを受け継ぎながら、それぞれの個人にふさわしい新しい行動の仕方が形成されるという側面である。これを対比させて強調する場合には、「社会化」と「個性化」という2つの概念によって表現される。

ところで、2つの側面のうち、どちらが支配的なのかは、個人の生涯の発達段階と関連しており、通例、青年期には主として「社会化」が、中年期には「個性化」が現れる。しかし、こうした傾向は必ずしも画一的ではなく、生涯発達の視点からすると両者の統合によって成り立つとみている（斉藤，1991）。

ここでは、若年層と年配層の職業生活設計の違いに注目していく。障害者の職業経歴との比較検討のための資料を提示することにねらいがあるので、対象者は高卒勤労者にしぼることにする。

なお、本稿では、職業生活設計を「職業生活の節目となる“出来事”の布置」としてとらえている。ここでいう職業生活の節目となる“出来事”とは、生涯のそれぞれの時点で“地位ないし位置の移行”を伴う出来事であり、仕事につくための準備、職業選択、適応、働き盛り、引退といった一連の流れとして位置づけられる。これはまた、親からの独立、結婚、親になること、子育て、その子どもの独立といった、個人の生活における一連の出来事も密接に関連している。このような出来事に対し、多くの人はそれぞれを通過するに“ふさわしい年齢”を予期して生活していると考えられるが、これを職業生活設計として理解していく。

2. 調査の概要

(1) 調査対象

ここで取り上げる対象者は、栃木県下5企業の勤労者 923人である。対象者の構成は表に示した。年配者の女子が少ないことが特徴的である。

表6-1 調査対象者 (人)

	全 体	男 子	女 子
若年者 (30歳未満)	551	258	293
年配者 (40歳以上)	372	330	42

(2) 調査方法並びに調査時期

「勤労者の職業生活設計に関する調査」は、宇都宮大学教育学部職業指導研究室が進路指導に関する調査研究の一環として行った。調査時期は1991年10～12月である。なお、配布・回収は企業の担当者に一任した。その際、個人用封筒を用意し、個人の回答を封入した上で回収することを依頼した。

(3) 調査項目 (巻末資料参照)

① 節目の出来事を経験した (予定する) 年齢

精神的に自立した年齢、経済的に自立した年齢、職業人らしさを身につけた年齢、結婚した年齢、転職をやめた年齢、地位や肩書を持った年齢、余暇をうまく過ごせるようになった年齢、老後の準備をするようになった年齢

② 人生の段階を区切る年齢

子どもの時期の終わる年齢、若い時期の始まる年齢、若い時期の終わる年齢、大人の時期の始まる年齢、中年の時期の始まる年齢、中年の時期の終わる年齢、高齢期の始まる年齢、働き盛り時期の始まる年齢、働き盛りの時期の終わる年齢

3. 調査結果の概要

(1) 調査対象者の属性

表6-2に、調査対象者の調査時点現在の職種を示した。

表6-2 調査対象者の職種 (調査時点現在) (%)

		技術的な職業	専門的な職業	事務の職業	販売の職業	建設の職業	運輸・通信の職業	製造の職業	保安の職業	サービスの職業	その他
男子	合 計 588人	9.0	0.3	9.5	3.1	0.2	1.0	70.1	1.0	0.7	5.1
	若年者 258人	8.1	—	5.0	2.7	—	0.4	81.4	—	—	2.3
	年配者 330人	9.7	0.6	13.0	3.3	0.3	1.5	61.2	1.8	1.2	7.3
女子	合 計 335人	2.1	0.6	32.5	29.9	—	—	24.2	—	6.6	4.2
	若年者 293人	1.7	0.3	32.4	31.1	—	—	25.6	—	6.1	2.7
	年配者 42人	4.8	2.4	33.3	29.9	—	—	14.3	—	9.5	14.2

男子は製造の仕事に従事する者が7割、事務的な仕事と技術的な仕事がともに1割弱で、これらの仕事に従事する者で全体の9割を占める。これに対し、女子は事務の仕事に従事する者が3割強、販売と製造の仕事に従事する者が3割弱で、これらの仕事に従事する者で全体の9割を占める。

男子の場合、若年者が製造の仕事で8割を占めるのに対し、年配者の仕事は多岐にわたっており、若年者に比べると製造の仕事が少なく、事務の仕事に従事する者が多い。

一方、女子の場合、若年者と年配者の傾向に大きな違いは見いだされないが、若年者に比べると年配者は販売、製造の仕事が少なく、サービスの仕事に従事する者が多い。

また、調査時点現在、男子年配者の8割弱、男子若年者並びに女子は全てが「地位・肩書なし」と答えている。男子年配者の地位・肩書は、課長（4%）・係長（5%）・班長（8%）となっており、管理的地位についている者はきわめて少ない。

(2) 節目の出来事を経験する年齢

前述のように、節目の出来事を経験する（予定する）年齢は、具体的な生活設計の様相である。回答された年齢を個人の時間軸上でみた場合に、年配者と若年者の違いはあるのだろうか。以下では時間軸上の位置の違いに注目して、まず両者の関係を見ていくことにしたい。

回答された年齢は、概ね2タイプに大別される。その一つは、年配者が回答した年齢が若年者が回答した年齢よりも大きい場合である。もう一つは、両者の回答に質的な違いがない場合である。表6-3に、節目の出来事の年齢を示した。

表6-3 節目の出来事を経験する年齢

		精神的自立	経済的自立	就職	余暇の過ごし方	職業人らしさ	転職	結婚	地位や肩書	老後の準備
男子	若年	154	179	255	72	138	109	133	26	81
		20.1	20.9	18.1	20.4	22.5	24.3	25.5	32.8	37.5
	年配	280	304	320	126	267	233	311	170	200
		23.3	24.0	18.0	33.0	23.7	28.9	26.9	34.5	43.4
		5.18	5.39	1.28	10.48	4.39	6.58	3.34	5.68	6.84
F値		45.04***	46.78***	2.38	94.07***	7.70**	40.91***	16.45***	1.89	30.03***
女子	若年	157	155	289	91	146	131	132	23	79
		19.7	20.9	18.0	21.3	21.4	23.0	24.6	28.2	37.2
	年配	29	31	40	17	32	25	34	8	15
		21.6	22.0	18.9	36.6	22.1	29.6	23.8	33.9	42.9
		6.57	4.98	3.18	9.86	3.91	8.36	2.50	5.36	7.10
F値		4.75*	2.33	18.9***	167.9***	1.84	39.27***	3.29	5.97	3.69

(上段：人数・中段：平均年齢・下段：標準偏差)
 (***) : P<.001, ** : P<.01, * : P<.05)

第一のタイプに該当する出来事は、男女ともに「精神的自立」「余暇の過ごし方」「転職」、男子の「経済的自立」「職業人らしさ」「結婚」「老後の準備」、女子の「就職」、である。こうした出来事については、年配者が長いスパンで予定を立てている、もしくはすでに通過しているのに対し、若年者は比較

的早い時点に目安をおいている。

また、第二のタイプは、男女ともに「地位や肩書」、男子の「就職」、女子の「経済的自立」「職業人らしさ」「結婚」「老後の準備」である。こうした出来事については、年配者と若年者の傾向は類似している。

第一のタイプと第二のタイプの結果を総合すると、高卒技術職の職業的なキャリアの展開との関連が示唆される。つまり、早い時期に職業的な地位では天井に到達することについて、年配者も若年者も同様の見方をしているが、男子の場合、年配者とは異なる生活設計を若年者が展望しているのに対し、女子の場合、若年者が年配者の生活設計を既に取り込んでいるとみることができる。

(3) 人生の段階を区分する年齢

表6-4に、人生の段階を区分する年齢を示す。

若年者が回答した年齢は男女にかかわらず、概ね年配者よりも小さい。

男子の場合、いずれの項目にも有意な差がある。

表6-4 人生段階を区分する年齢

(上段：人数・中段：平均年齢・下段：標準偏差)

		子ども	若い時期 始め	若い時期 終わり	大人の 始め	中年期 始め	中年期 終わり	高齢期 始め	働き盛り 始め	働き盛り 終わり
男子	若年	258 14.2 3.15	258 17.6 1.74	258 26.1 3.68	258 25.1 4.86	258 35.9 4.23	258 49.2 5.43	258 58.0 7.15	258 28.1 4.88	258 43.7 6.46
	年配	327 15.0 3.22	327 18.3 2.00	329 27.1 3.89	329 26.6 6.52	329 38.1 4.73	326 50.7 5.10	329 62.6 7.26	329 32.4 4.96	329 48.4 5.01
	F 値	10.21**	19.66***	9.42**	9.60**	35.32***	11.98***	60.33***	106.8***	100.6***
女子	若年	290 13.6 3.18	293 17.9 1.77	292 25.1 2.94	293 26.3 3.68	292 36.5 4.31	290 50.5 6.35	293 60.8 8.95	293 24.8 4.20	293 37.0 7.19
	年配	40 14.1 3.49	42 18.1 1.18	42 25.4 3.19	42 27.0 5.27	42 37.6 5.11	41 50.6 6.32	42 66.8 6.18	41 29.7 5.51	40 44.5 7.34
	F 値	0.83	0.82	0.39	0.93	2.08	0.01	17.63***	45.10***	38.30***

(*** : $P < .001$, ** : $P < .01$, * : $P < .05$)

一方、女子の場合、回答年齢の平均値に年配者と若年者で有意の差のない項目は、「子どもの終わり」「若い時期の始め」「若い時期の終わり」「大人の始め」「中年の始め」「中年の終わり」である。これに対し、「働き盛りの始め」「働き盛りの終わり」「高齢の始め」の年齢は、年配者の方が若年者よりも大きい。こうした結果から、女子の年配者の働き盛りが若年者よりも2年ほど長いことがわかる。

以上のことから、男子の若年者の場合、自分の年齢に引き寄せて人生の段階を区分しており、年配者がみている年齢よりも若くして次の人生段階に進むとみている。ここに年配者との違いがある。

これに対し、女子の場合、働き盛り、高齢期の始まる年齢を除けば、若年者も年配者も同様の人生段

階を想定している。つまり、年齢に関係なく人生段階が区分されているといえる。

(4) 時間軸上の順序

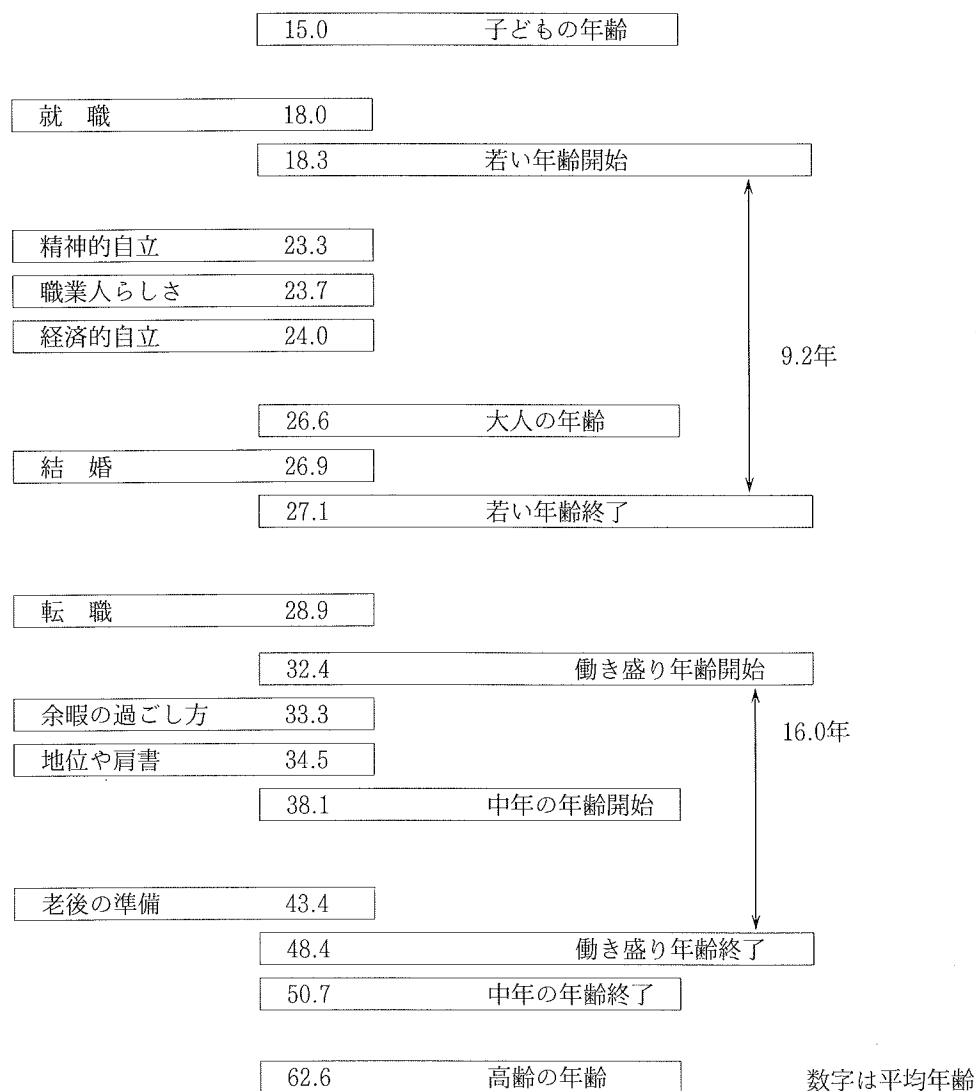
「職業生活の節目となる“出来事”の布置」として職業生活設計全体を俯瞰するために、時間軸上の配置を図示した(図6-1～図6-4)。ここでは、図の左側に9項目の節目の年齢(個人の予定年齢)を、右側には人生の段階を区分する年齢を、それぞれ平均値の小さい順に並べ、これらの関連を見ようとしたものである。

① 若年者と年配者の違い(男子の場合)

前述のように、各年齢について、年配者が回答した年齢の方が概して大きいという傾向が見いだされたが、それでは、時間軸上の布置でみると、並び順はどのようにになっているのだろうか。

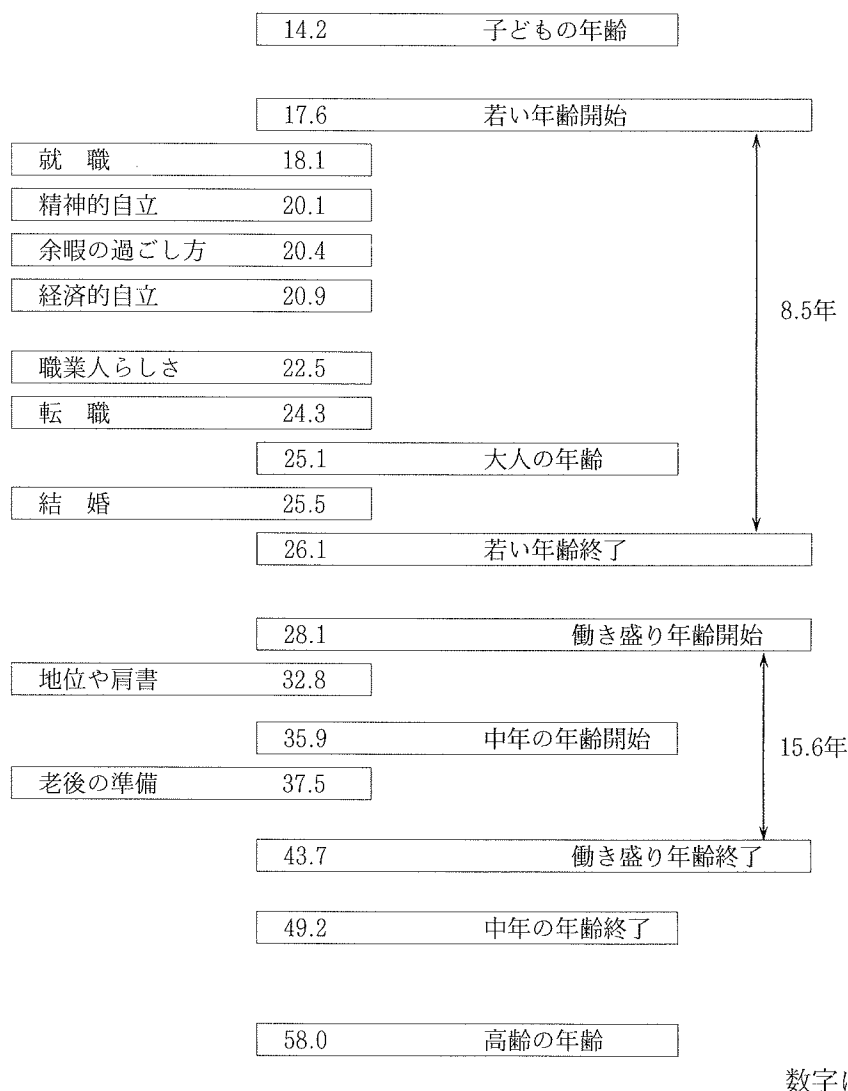
まず、年配者の職業生活設計の特徴をあげてみよう。

図6-1 男子の生活設計(高卒40歳以上:330人)



「精神的自立」と「職業人らしく振る舞う」「経済的自立」がほぼ同時期で、その後「大人の始まり」の年齢を迎える。大人の年齢は26歳くらいであり、その後、結婚し、若い時期を終えると定職に落ちつく。職業人らしく振る舞えるのは就職後5年目くらいからである。働き盛りを迎えて、余暇がうまく過ごせるようになり、16年間に及ぶ働き盛りの間に地位を得、老後の準備を始めることになる。高齢の始めは63歳からである。

図6-2 男子の生活設計（高卒30歳未満：258人）



一方、若年者の場合、「精神的自立」と「余暇をうまく過ごす」「経済的自立」が就職後ほぼ同時期で、その後、職業人らしさを身につけて大人の年齢を迎える。職業人らしく振る舞えるのは就職後5年目くらいからである。大人の年齢は25歳くらいである点は年配者と同様である。その後、結婚して働き盛りを迎える。16年間に及ぶ働き盛りの間に地位を得、老後の準備を始めることになる。高齢の始めは58歳からである。

若い時期というのは主観的な指標であるが、年配者は若い時期が長く、この間に結婚する。一方、若年者はこの時期に定職を得て結婚する。

以上のことから、男子の若年者と年配者の主な違いは次の点である。

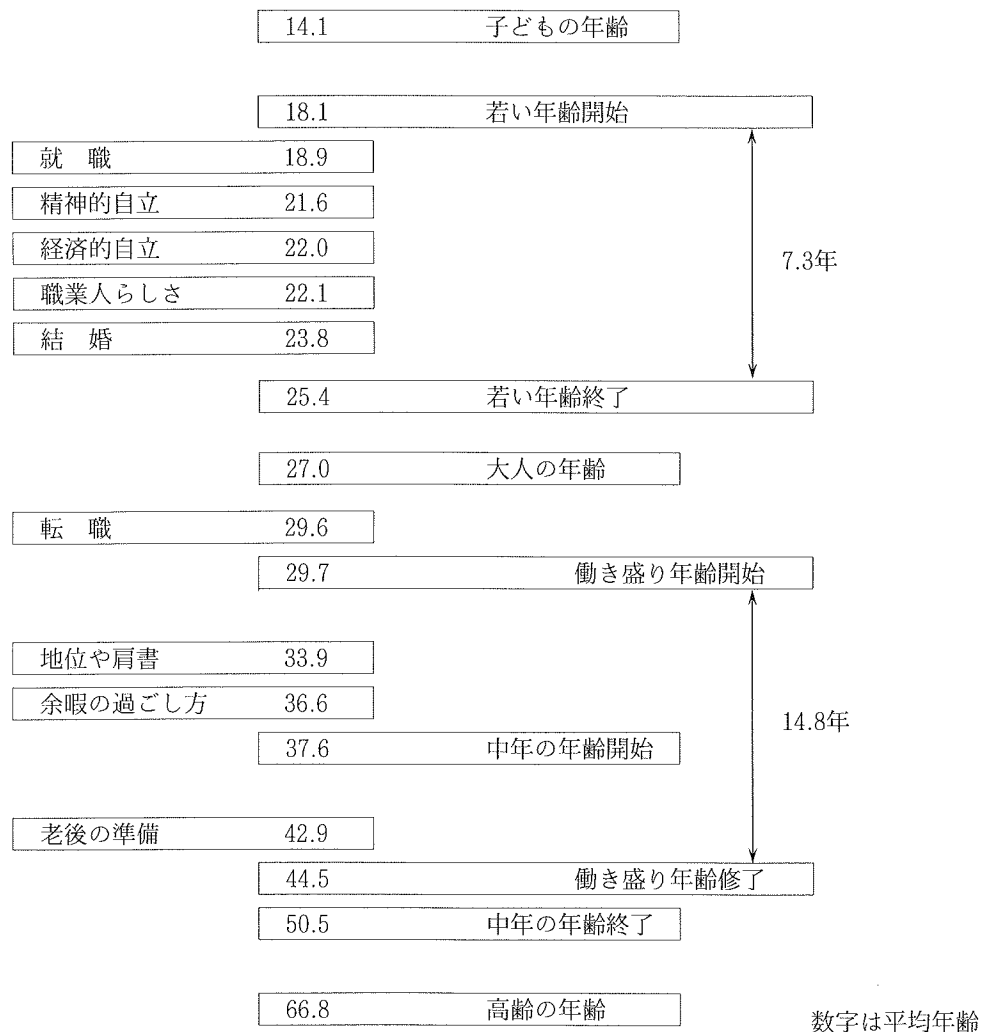
第一は、年配層では就職後、「精神的に自立する」、「経済的に自立する」、「職業人らしく振る舞う」時期はほぼ同時である。これに対し、若年者は「精神的に自立する」、「経済的に自立する」、「余暇をうまく過ごす」時期がほぼ同時であり、「職業人らしく振る舞う」時期はその2年後であるとみている。

第二は、若年者では「転職してもよいと思われる」年齢が4年余り低くなっていることである。若年者の方が「定職」と思える職業につく時期は早いとみている。

② 若年者と年配者の違い（女子の場合）

各年齢について、年配者と若年者の違いが小さいという傾向が見いだされる。それでは、時間軸上の布置について、男子と同様にみていこう。

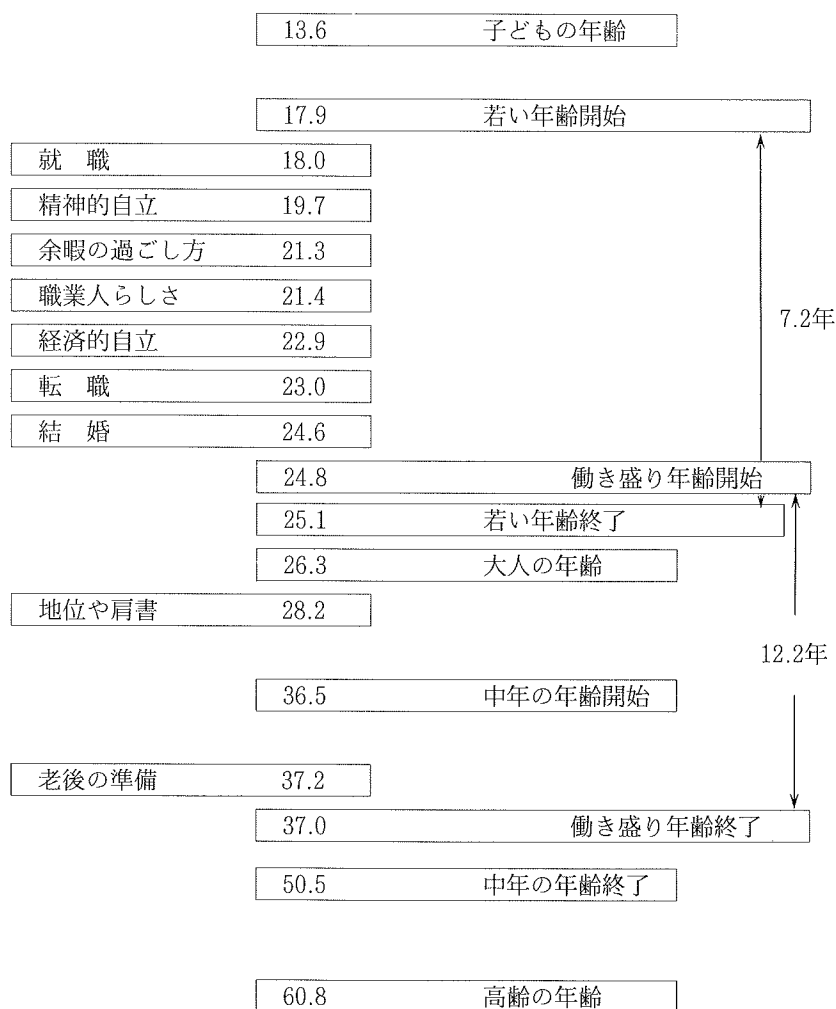
図6-3 女子の生活設計（高卒40歳以上：42人）



年配者の場合、若い時期に「就職」「精神的自立」「経済的自立」「職業人らしさ」「結婚」といった出来事が順次起こる。大人の年齢は27歳くらいであり、男子よりも遅い。職業人らしく振る舞えるのは就職後4年目くらいからである。

定職に落ちつく働き盛りを迎え、15年間に及ぶ働き盛りの間に余暇がうまく過ごせるようになり、老後の準備を始めることになる。高齢の始めは67歳からである。

図6-4 女子の生活設計（高卒30歳未満：293人）



数字は平均年齢

一方、若年者の場合も、若い時期の出来事に「余暇をうまく過ごす」を加えるとほぼ同様であるが、働き盛りの時期は若い時期に始まる。こうした結果、25歳までにめまぐるしく出来事を通過するという予定になっている。職業人らしく振る舞えるのは就職後3年目くらいからである。その後、大人の年齢を迎えるという順序である。働き盛りの期間は12年と短く、その間に地位を得、老後の準備を始める予定になっている。高齢の始めは61歳からである。

以上のことから、若年者と年配者の違いは次の点である。

女子の場合、第一に、若い時期が終わって大人になるという点が男子とは異なっている。年配者は働き盛りの時期が長く、高齢の開始も遅いとみている。

第二に、年配者では、就職後、「精神的に自立する」、「経済的に自立する」、「職業人らしく振る舞う」はほぼ同時期である。これに対し、若年者は「精神的に自立する」があり、次いで「余暇をうまく過ごす」と「職業人らしく振る舞う」がほぼ同時期にあり、「経済的に自立する」はその後である。

第三に、男子と同様、若年者の方が「定職」と思える職業につく時期は早いとみている。

【文献】

望月葉子 中島史明 大根田充男 年齢規範の観点からみた青年の将来展望に関する研究 — 予期された標準的なライフサイクルと職業生活設計をめぐって — 発達心理学研究第3巻第2号 81-89, 1992.

望月葉子 青年のキャリアに関する展望 — 職業生活設計に関する調査研究から — 青年心理学研究 第5号 1-10, 1993.

望月葉子 職業生活設計に関わる年齢規範について — 年齢規範の受けとめ方を中心として：男子の場合 — 青年心理学研究 第5号 27-42, 1993.

日本労働研究機構 「青年の職業生活設計の規定因に関する研究 — 青年の社会化の課題と年齢規範 —」 資料シリーズ No.12, 1991.

日本労働研究機構 「高校生の職業生活設計 — 高校生の進路選択等に関する調査より —」 調査研究報告書 No.20, 1991.

日本労働研究機構 「大学生の職業生活設計 — 大学生の職業生活設計に関する調査より —」 調査研究報告書 No.32, 1992.

大根田充男 望月葉子 職業生活設計をめぐる課題 — 男子の職業生活設計について：勤労者調査と在学生調査より — 宇都宮大学教育学部紀要 第43号 第1部 139-168, 1993.

大根田充男 望月葉子 中島史明 職業生活設計をめぐる課題 — 高校生・勤労者・高校教員の調査結果から — 宇都宮大学教育学部紀要 第44号 第1部 165-199, 1994.

斉藤耕二 「発達課題と社会化」 斉藤耕二・菊池章夫（編著）「社会化の心理学ハンドブック — 人間形成と社会化 —」 川島書店 1990.

斉藤耕二 「青年期の社会化と発達課題」 日本労働研究機構 「青年の職業生活設計の規定因に関する研究 — 青年の社会化の課題と年齢規範 —」 資料シリーズ No.12, 1991.

第2節 障害者の職業経歴の特徴

1. 対象者の属性

表6-5、表6-6に対象者の属性を示した。

若年者は障害程度では中軽度がそれぞれ半数ずつである。通勤寮で生活している生活自立レベルⅢの方が多く、グループホームで生活しているレベルⅡは2人である。教育歴では、10人とも義務教育を卒業しており、その半数は養護学校高等部、職業訓練校、能力開発センターでさらに教育を受けている。職業訓練校で訓練を受けた者1人が一般求人枠で就職しているが、その他は援助を得て就労している。全員製造の仕事についており、企業規模は小さい。仕事に対する満足の程度は、中程度が多い（評価基準は第5章第2節参照）。

表6-5 若年者の属性

事例	年齢	性	障害程度	健康状況	生活自立		教育歴				勤め先の概要				
					レベル	家族	小学校	中学校	高校	その他	レベル	業種	企業規模	給料	満足
I	28	男	B2	良好	Ⅱ	父:粗暴・アルコール中毒 母:死亡,兄:保護者	普通学級 卒業	特殊学級 卒業	/	母の死後 不登校	Ⅱ	製造業	30人	8万円	中
E	27	男	B1	分裂病(19歳発病) 現在も服薬中	Ⅲ	母:身体障害2級 父:死亡,兄:精神薄弱	特殊学級 卒業	特殊学級 卒業	/	/	Ⅱ	製造業	20人	9万円	中
D	25	男	B2	良好	Ⅲ	母:行方不明 継母:死亡	普通学級 卒業	普通学級 卒業	養護学校 高等部卒	/	Ⅱ	製造業	15人	10万円	低
A	24	男	認定されて いない	良好	Ⅱ	父母:行方不明 妹:精神薄弱	普通学級 卒業	特殊学級 卒業	/	職業訓練校 修了	Ⅰ	製造業	15人	15万円	高
G	19	男	B2	てんかん治療 (7~16歳)	Ⅲ	父:不明 母:精神薄弱	2年まで 普通学級	特殊学級 卒業	養護学校 高等部卒	/	Ⅱ	製造業	30人	8万円	中
J	23	女	B1	良好	Ⅲ	父母:死亡 兄:精神薄弱	普通学級 卒業	特殊学級 卒業	/	/	Ⅱ	製造業	10人	11万円	中
H	22	女	B1	心因性ヒステリー 治療(19歳)	Ⅲ	母,きょうだい8人: 精神薄弱	普通学級 卒業	普通学級 卒業	/	/	Ⅱ	製造業	10人	11万円	中
B	20	女	B2	良好	Ⅲ	両親離婚,姉:保護者 兄:行方不明	5年まで 普通学級	特殊学級 卒業	/	能力開発センター 修了	Ⅱ	製造業	100人	12万円	高
F	19	女	B2	良好	Ⅲ	母・兄:行方不明	特殊学級 卒業	特殊学級 卒業	/	/	Ⅱ	製造業	15人	8万円	低
C	18	女	B2	良好	Ⅲ	父:分裂病 母:精神薄弱	3年まで 普通学級	特殊学級 卒業	/	/	Ⅱ	製造業	30人	8万円	中

(注) 評価値は、調査時点現在(平成6年3月)で記入したものである

障害程度は手帳に記載された等級による: A2=重度, B1=中度, B2=軽度

満足度の評価: 高=「満足」が14項目中10項目以上, 中=「満足」が14項目中5~9項目, 低=「満足」が14項目中4項目以下

年配者は、障害程度では軽度ではなく、加齢とともに重度化(K氏の事例:第5章第1節参照)した例を含めて、若年者よりも重い。通勤寮で生活している生活自立レベルⅢの方が多く、一旦はグループ

ホームで生活しているレベルⅡまで達成した後に自立レベルが下降した事例を含んでいる。教育歴では、一応義務教育を卒業したという者が6人いるが、中退、不登校、不就学が半数を占める。全員、援助を得て就労した経験を持つが、加齢とともに就労のレベルが下降した事例が3例ある。こうした者は、施設職員として作業に従事している。その他の仕事は、製造とクリーニングが半々である。企業規模は小さい。仕事に対する満足の程度は、高い者が多い（評価基準は第5章第2節参照）。

表6-6 年配者の属性

事例	年齢	性	障害程度	健康状況	生活自立		教育歴				勤め先の概要						
					レベル	家族	小学校	中学校	高校	その他	レベル	業種	企業規模	給料	満足		
S	54	男	A 2	身障6級 (脳性まひ)	Ⅲ	父母：死亡					不就学	Ⅱ	施設	20人	6万円	高	
K	52	男	A 2	仕事中のけが(50歳) により意欲喪失	Ⅲ	父：死亡 母：精神薄弱	普通学級 卒業	普通学級 卒業				Ⅳ					
R	51	男	A 2	神経内科治療 (30歳)	Ⅲ	父：不明 母：死亡	普通学級 卒業	普通学級 卒業				Ⅱ	施設	100人	6.5万円	高	
L	48	男	B 1	風邪をひくと 回復に時間がかかる	Ⅱ	父母：死亡	普通学級 卒業	普通学級 卒業				Ⅱ	製造業	50人	10万円	高	
Q	43	男	B 1	身障5級 (40歳)	Ⅱ	父母：死亡 婚約者：精神薄弱、 糖尿病	5年で 中退					Ⅱ	製造業	30人	13万円	低	
P	56	女	B 1	疲れ易い	Ⅱ	父母：行方不明	不明	普通学級 卒業			不登校	Ⅲ	施設	100人	6万円	高	
T	49	女	A 2	分裂病発病(21歳) 服薬治療中	Ⅲ	父母：死亡	不明	普通学級 卒業				Ⅱ	クリーニング業	50人	7万円	高	
O	46	女	A 2	幻覚・妄想(41歳) 服薬治療中	Ⅲ	父母：死亡	不明	特殊学級 卒業				Ⅲ	サービス業(午前) 2人 クリーニング(午後)100人	計5万円		高	
M	44	女	B 1	交通事故2回	Ⅱ	父母：死亡	1年で 中退					Ⅱ	クリーニング業	50人	8.5万円	高	
N	44	女	B 1	良好	Ⅲ	父：不明 母：精神薄弱	2年で 中退					Ⅱ	クリーニング業	20人	8.5万円	中	

(注) 評価値は、調査時点現在(平成6年3月)で記入したものである

障害程度は手帳に記載された等級による：A 2 = 重度，B 1 = 中度，B 2 = 軽度

満足度の評価：高 = 「満足」が14項目中10項目以上，中 = 「満足」が14項目中5～9項目，低 = 「満足」が14項目中4項目以下

2. 男子年配者の職業生活設計

(1) 人生段階を区分する年齢

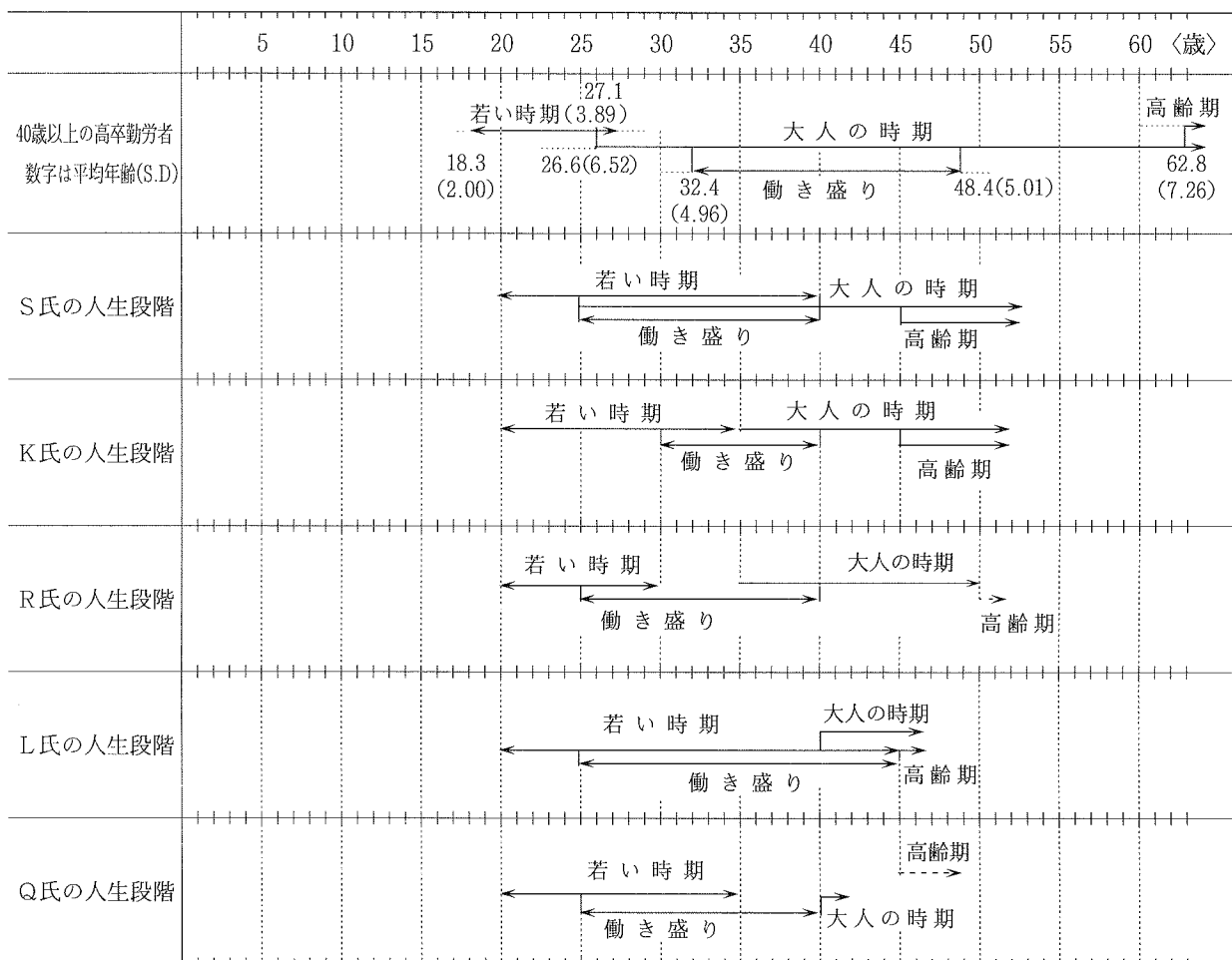
図6-5に、人生段階を区分する年齢について、障害のない勤労者との対比で示した。なお、障害者について回答された年齢は指導員の観察による。

障害のある年配者男子の場合、大人の始まりの年齢は、S氏以外は35～40歳であり、10年ないし15年は遅くなっている。また、若い時期は比較的長く見積もられているが、これは「若々しい」時期にふさわしい出来事を経験するのに時間がかかるというような意味ではなく、どちらかといえば“子どもっぽ

い”行動が目立つとみられている。

彼らの場合、働き盛りの時期は必ずしも短いとはいえない。しかし、その始まりが前傾し、若い時期の最中に位置しており、働き盛りの終わりも早くなっている。これは、就いている仕事が熟練を要しない仕事であることとの関連が深い。また、働き盛りが終わって5年程度で高齢期を迎える例が多い。障害のない勤労者の高齢期が63歳からというのに比べると15年ほど早い。健康者本人の回答は第三者評価よりは遅く見積もられる傾向があるため、ズレの期間はもう少し短いかもしれない。

図6-5 男子年配者の人生段階の区分



(2) 節目の出来事を経験する年齢

表6-7に、節目の出来事を経験した年齢について、障害のない勤労者との対比で示した。なお、障害者について回答された年齢は指導員の観察による。

まずは、障害のある人が経験しなかった出来事についてみてみよう。調査した項目の内、「地位や肩書を持つ」「結婚する」を経験した例はない。婚約まで進みながら実現しなかった例が1例あるのみである。また、「転職をやめる」「老後の準備をする」については、障害のない人とは内容的に異なっているという意味で、経験した例はないといえる。具体的には、障害のない人には、「転職をやめる」＝「腰

を据えて取り組む仕事を持つ」という年齢を聞いたものである。一方、障害のある人にとっては、振り返ってみると結果的に「腰を据えて取り組んだことになった」というものであり、「この仕事で人生設計を立てる」という決意や割り切りがあった年齢ではない。つまり、「転職をやめる」という主体的な生活設計があるわけではなく、「転職を余儀なくされる」事態がいつ何時でも起こり得るという事情があるとみなければならない。その意味で、「この仕事に腰を据えて取り組む」年齢が指導員にイメージできなかったといえる。さらにいえば、この仕事に腰を据えて取り組むということが人生の節目の“出来事”として適切であるのかということになる。

同様に障害のない人には、「老後の準備をする」＝「引退後の生活設計を立てる」という年齢を聞いたものであるが、障害のある人にとっては「その時期になってみないとどのような生活形態が最も望ましいのかという見通しが立たない」という問題がある。ここで老後の見通しが立てられている例が1例あるが、これは彼の引退後の生活形態が指導員にイメージできたという意味であろう。

表6-7 男子年配者が節目の出来事を経験する年齢

		初職への入職	通勤寮入寮	精神的自立	経済的自立	余暇の過ごし方	職業人らしさ	転職	結婚	地位や肩書	老後の見通し	引退の時期
障害のない勤労者		320 18.0 1.28		280 23.3 5.18	304 24.0 5.39	126 33.0 10.48	267 23.7 4.39	233 28.9 6.58	311 26.9 3.34	170 34.5 5.68	200 43.4 6.84	
障害者男子	S	37	37	40	—	—	—	—	—	—	—	55
	K	20	35	40	40	35	35	—	—	—	50	55
	R	30	40	30	35	40	35	—	—	—	—	55
	L	28	31	40	40	—	30	30	—	—	—	50
	Q	15	40	35	35	40	35	—	—	—	—	50

(障害のない勤労者 上段：人数・中段：平均年齢・下段：標準偏差)

次に、障害のある人が経験した出来事についてみてみよう。「就職する」「精神的に自立する」は対象者全員が経験した出来事であり、「引退する」は同様に全員に予定する年齢が明らかになっている。一方、「経済的に自立する」「余暇をうまく過ごす」「職業人らしく振る舞う」は多くの事例で経験した出来事である。

そこで、出来事を経験した年齢について、障害のない人の場合と比較していく。障害の有無にかかわらず、「精神的に自立する」「経済的に自立する」「職業人らしく振る舞う」のそれぞれの出来事がほぼ同時期に一連のものとして経験されるが、障害のある人の場合はその時期が遅くなっている。また、「職業人らしく振る舞う」は6年ないし11年遅れているのに対し、「精神的に自立する」「経済的に自立する」は6年～16年の遅れであり、そのズレの幅がやや大きい。

出来事の生起順をみると、「通勤寮入寮」との関係が深い。指導を得て「精神的に自立する」「経済的に自立する」「職業人らしく振る舞う」という一連の出来事を達成したとみることができる。確かに、R氏の一連の出来事は「初職入職」が達成できたこととの関連で評価されているが、解雇を繰り返す中

で挫折している。また、Q氏の一連の出来事は「単身生活」を余儀なくされるようになったこととの関連で評価されているが、単身生活を維持できなくなって挫折している。両者ともに通勤寮の指導を得て現在に至っているという点で、他の3例と同様の解釈ができよう。

これに対し、「余暇をうまく過ごす」のズレの幅は小さい。

(3) 時間軸上の順序

障害のない年配者男子の場合、「精神的自立」と「職業人らしく振る舞う」「経済的自立」がほぼ同時期で、その後「大人の始まり」の年齢を迎えるという特徴であった(図6-1参照)。大人の年齢は26歳くらいであり、その後、結婚し、若い時期を終えると定職に落ちつく。また、職業人らしく振る舞えるのは就職後5年目くらいからであった。働き盛りを迎えて、余暇がうまく過ごせるようになり、16年間に及ぶ働き盛りの間に地位を得、老後の準備を始めることになる。高齢の始めは63歳からであった。

障害のある事例では、通勤寮の指導を得て「大人の始まり」の時期を迎えることができ、「精神的自立」と「職業人らしく振る舞う」「経済的自立」を経験したと解釈できる。また、同様に「余暇をうまく過ごす」ができるようになった例もあるが、「結婚」「地位や肩書」「老後の準備」などは経験していない。高齢期の始まりは早く、引退の時期も早くなっている。

3. 女子年配者の職業生活設計

(1) 人生段階を区分する年齢

図6-6に、人生段階を区分する年齢について、障害のない勤労者との対比で示した。なお、障害者について回答された年齢は指導員の観察による。

障害のある年配者女子の場合、大人の始まりの年齢は30~35歳であり、同年代の障害のない勤労者が27歳であるのに対し、5年ないし10年は遅くなっている。また、若い時期は比較的長く見積もられているが、女子の場合も男子と同様に、“子どもっぽい”行動が目立つとみられている。

働き盛りの時期は、男子と同様に必ずしも短いとはいえないが、始まりが前傾しており、若い時期の最中に位置している。働き盛りの終わりも早くなっている。また、働き盛りが終わって5年ないし10年で高齢期を迎える例が多い。障害のない勤労者の高齢期が67歳からというのに比べると15年~20年ほど早い。

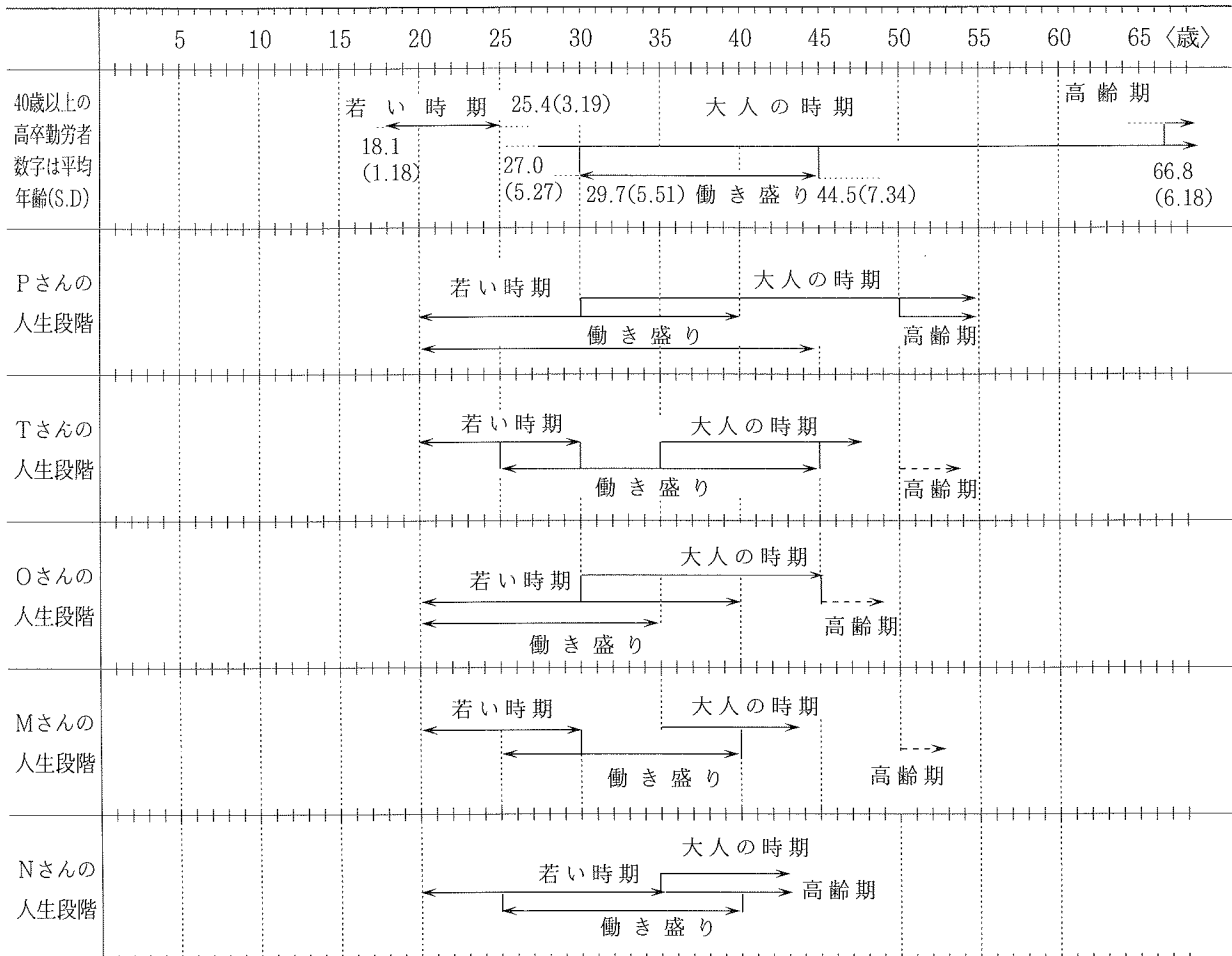
(2) 節目の出来事を経験する年齢

表6-8に、節目の出来事を経験した年齢について、障害のない勤労者との対比で示した。なお、障害者について回答された年齢は指導員の観察による。

まずは、障害のある人が経験しなかった出来事についてみてみよう。調査した項目の内、「地位や肩書を持つ」「結婚する」を経験した例はない。また、「転職をやめる」「老後の準備をする」については、

障害のない人とは内容的に異なっているという意味で、男子と同様に経験した例はないといえる。また、「余暇をうまく過ごす」は達成した者が相対的に少ない。

図6-6 女子年配者の人生段階の区分



次に、障害のある人が経験した出来事についてみてみよう。「就職する」「精神的に自立する」「経済的に自立する」「職業人らしく振る舞う」は対象者全員が経験した出来事である。一方、「引退する」は多くの事例で予定が明らかな出来事である。

そこで、出来事を経験した年齢について、障害のない人の場合と比較していく。障害の有無にかかわらず、「精神的に自立する」「経済的に自立する」「職業人らしく振る舞う」のそれぞれの出来事がほぼ同時期に一連のものとして経験されるが、障害のある人の場合はその時期が遅く、8年～18年のズレがある。

出来事の生起順をみると、「通勤寮入寮」との関係が深い。指導を得て「精神的に自立する」「経済的に自立する」「職業人らしく振る舞う」という一連の出来事を達成したとみることができる。確かに、Tさんの一連の出来事は「更生施設入所」による指導との関連で評価されているが、重複障害の治療で職業から離れる時期がその後長く続いていた。また、Pさんの一連の出来事は「住み込み」との関連で

評価されているが、単身生活は維持できずに通勤寮に入寮している。両者ともに通勤寮の指導を得て現在に至っているという点で、他の3例と同様の解釈ができよう。

表6-8 女子年配者が節目の出来事を経験する年齢

		初職への入職	通勤寮入寮	精神的自立	経済的自立	余暇の過ごし方	職業人らしさ	転職	結婚	地位や肩書	老後の見通し	引退の時期
障害のない勤労者		40 18.9 3.18		29 21.6 6.57	31 22.0 4.98	17 36.6 9.86	32 22.1 3.91	25 29.6 8.36	34 23.8 2.50	8 33.9 5.36	15 42.9 7.10	
障害者女子	P	20	51	30	30	20	30	40	—	—	55	55
	T	15	42	30	30	—	30	40	—	—	—	55
	O	16	37	40	40	40	40	—	—	—	45	50
	M	24	28	30	30	—	35	—	—	—	—	55
	N	22	28	30	30	—	30	—	—	—	—	—

(障害のない勤労者 上段：人数・中段：平均年齢・下段：標準偏差)

(3) 時間軸上の順序

障害のない年配者女子の場合、若い時期に「就職」「精神的自立」「経済的自立」「職業人らしさ」「結婚」といった出来事が順次起こる。大人の年齢は27歳くらいであり、男子よりも遅い。職業人らしく振る舞えるのは就職後4年目くらいからであった(図6-3参照)。また、定職に落ちつく働き盛りを迎え、15年間に及ぶ働き盛りの間に余暇がうまく過ごせるようになり、老後の準備を始めることになる。高齢の始めは67歳からであった。

障害のある事例では、通勤寮の指導を得て「大人の始まり」の時期を迎えることができ、「精神的自立」と「職業人らしく振る舞う」「経済的自立」を経験したと解釈できる。また、同様に「余暇をうまく過ごす」ができるようになった例もあるが、「結婚」「地位や肩書」「老後の準備」などは経験していない。高齢期の始まりは早く、引退の時期も早くなっている。

4. 若年者の職業生活設計

表6-9、表6-10に、人生の段階を区分する年齢並びに節目の出来事を経験する(予定する)年齢について、障害のない勤労者との対比で示した。なお、障害者について回答された年齢は指導員の観察による。

障害のある若年者の場合、若い時期の始まりは“もっともらしく”，障害のない者とのズレは小さい。しかし、大人の始まりの年齢は、まだ半数の例では予測できない。年配者の例で障害のない者よりも10年ないし15年は遅くなっていることを参考にすれば、若年者の場合はあまりにも先のことになる。

彼らの場合、働き盛りの始まりは年配者と同様、前傾しており、若い時期の最中に位置している。しかし、働き盛りの終わりの年齢は予測できない。したがって、高齢期の予測も立たない。

表6-9 男子若年者が節目の出来事を経験する年齢

	初職への 入職	通勤寮 入寮	若い時 期始め	大人の 始め	働き盛 り始め	精神的 自立	経済的 自立	余暇の 過ごし方	職業人 らしさ	転 職	結 婚	地位や 肩書	老後の 見通し
障害の ない 勤労者	255 18.1 0.52		258 17.6 1.74	258 25.1 4.86	258 28.1 4.88	154 20.4 3.90	179 20.9 3.69	72 20.4 4.53	138 22.5 3.32	109 24.3 5.03	133 25.5 3.29	26 32.8 6.95	81 37.5 10.70
障害者 男子	I	21	21	20	21	20	24	—	—	—	—	—	—
	E	16	25	—	25	25	—	—	—	—	—	—	—
	D	18	24	18	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	A	19	21	20	20	20	—	21	20	—	21	—	—
	G	18	18	18	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(障害のない勤労者 上段：人数・中段：平均年齢・下段：標準偏差)

表6-10 女子若年者が節目の出来事を経験する年齢

	初職への 入職	通勤寮 入寮	若い時 期始め	大人の 始め	働き盛 り始め	精神的 自立	経済的 自立	余暇の 過ごし方	職業人 らしさ	転 職	結 婚	地位や 肩書	老後の 見通し
障害の ない 勤労者	289 18.0 0.23		293 17.9 1.77	293 26.3 3.68	293 24.8 4.20	157 19.7 3.52	155 20.9 3.19	91 21.3 3.08	146 21.4 4.41	146 23.0 3.83	132 24.6 2.31	23 28.2 5.73	79 37.2 11.00
障害者 女子	J	21	21	20	—	22	23	—	—	23	21	—	—
	H	20	21	—	—	23	—	—	—	—	—	—	—
	B	17	17	16	16	18	—	—	—	—	—	—	—
	F	17	17	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	C	17	17	17	15	17	—	—	—	17	—	—	—

(障害のない勤労者 上段：人数・中段：平均年齢・下段：標準偏差)

まずは、障害のある人が経験しなかった出来事についてみてみよう。調査した項目の内、「地位や肩書を持つ」「結婚する」「老後の準備をする」を経験した例はない。また、「転職をやめる」については、障害のない人とは内容的に異なっているという意味で、年配者と同様に予定できないといえる。彼らにとっても、「転職をやめる」という主体的な生活設計があるわけではなく、「転職を余儀なくされる」事態がいつ何時でも起こり得るという事情があるとみなければならない。ここでA氏とJさんの年齢が回答されているが、今の仕事の中で成長してきたことが観察されており、この仕事を続けたいという気持ちを本人が持っており、周囲も現時点で望ましい仕事であると考えているという意味であろう。

次に、障害のある年配者が経験した出来事についてみてみよう。「就職する」「精神的に自立する」は年配の対象者全員が経験した出来事であり、「引退する」は同様に全員に予定する年齢が明らかになっている。一方、「経済的に自立する」「余暇をうまく過ごす」「職業人らしく振る舞う」は多くの事例で経験した出来事である。しかし、若年者はまだ経験していない者が大半である。

障害のない者が出来事を経験した年齢についてみると、「精神的に自立する」「経済的に自立する」「職業人らしく振る舞う」のそれぞれの出来事がほぼ同時期に一連のものとして経験されるが、障害のある年配者の場合はその時期が遅くなっていた。したがって、若年者がまだ経験していなくてもやむを

得ないのかもしれない。しかし、出来事の経験年齢は「通勤寮入寮」との関係が深かったことからみると、若年者の場合には指導を得た時期が早いことから、一連の出来事を達成する時期も早くなるのかもしれない。今後の経過に注目したい。

第3節 精神薄弱者の職業発達における通勤寮の役割

個人が社会の有効な構成員になっていく過程は、「社会化」として理解されてきた。個人はこうした社会化の過程を経て職業的に発達する。個人が一人前の職業人として振る舞うことができるようになるために、社会は社会化のカリキュラムを用意しているが、わが国の場合、それを企業が担ってきた慣行があった。

しかし、精神薄弱者の場合、成長期に発現した知的発達遅滞という障害特性からみて、障害のない同年齢の者が担うことのできる役割と同様のそれを担うことが難しい。つまり、障害のない人の社会化に対して企業が持っているカリキュラムでは十分に課題達成を進められないという問題が生ずる。職業的自立についてみれば、労働対価により生計をたてるには、企業内で生産性をあげることができるのか、生産性に見合った賃金・処遇で生活できるのか、キャリアの形成ができるのか、といった問題の解決が求められることは先にも述べた。そこで、どのような援助が媒介することが望まれるのかといった問題が浮かび上がる。

ここでは、仕事の世界からの引退を目前にした年配者の生涯を振り返ったとき、全く経験できなかった出来事と、時期は遅れても経験した出来事とが明らかにされた。職位の上向移動という意味ではキャリアの形成は見いだされなかった。しかし、職業人として一人前になるという課題は達成されており、職業人らしく振る舞うことが精神的に自立することなど、生活自立の課題達成と表裏一体であることが示された。ゆっくりではあるが援助を得て職業生活を維持継続する中で生活自立を達成していく過程が明らかにされたといえる。こうした生活設計の展開に果たした援助システムとして、通勤寮の役割は大きいものとする。

お わ り に

本報告書では、精神薄弱者の職業経歴の検討を通して、職業適応上の“障壁”を明らかにし、同時に、その“障壁”がどのような援助によって克服できたのか、また、克服の見通しが持てるのかを明らかにするために、どのような「職業適応のパターン」が見いだされるのか、を検討する枠組みを提案した。それは、経歴を発達的に評価する枠組みであり、時間経過にともなう評価として、「就労に関する評価」「生活自立に関する評価」を行い、必要に応じて「仕事の満足度に関する評価」を検討するものである。

【 職歴評価の枠組みについて 】

通勤寮利用者の職業適応のパターンは、2つに大別できるのではないかと考えられたが、いずれのパターンの安定期も、一般雇用により、一般従業員に期待される標準の基準を大きく逸脱しない生産性を持つとした「就労レベルⅠ」には達していない。

10例のパターン分析から明らかになったことは次のとおりである。

- (1) 生活自立のレベルの達成状況は就労レベルの達成状況と関連する。
- (2) 生活自立を支援する体制が整っていれば、早期に高い就労レベルを達成できる。
- (3) 生活自立と就労レベルの達成、並びに維持には、日常的な援助体制が必要である。

こうしたことからみて、職歴評価の試みは有効な枠組みであったといえよう。この枠組みは、職業経験の短い若年者についても有効な知見を提供するものであり、生活自立の評価とあわせて評価することが重要であることが示唆された。対象者を増やして得られた知見を検証することが今後の課題である。

【 加齢にともなう変化について 】

探索期を経て安定期に入り、下降期から引退に至るという職業生活の基本的なパターンにそってみると、下降期は身体的な衰えと対応している。しかし、下降期の変化が急激なことからみると、過労が高じていたことも考えられる。早い時期から働き方を配慮すること、また、引退にあたってはソフトランディングの方策が必要であること、を示唆している。

しかし、就業の意欲に関連した項目の他に、理解と学習能力に関連する項目などの項目では身体的な衰えに対応した能力低下は見いだされないことから、身体的な衰えを受容することが困難になるという問題が生じる。これが下降期の課題であると考えられる。

【 仕事に対する満足度の評価について 】

満足が高いと生産性が高いという見方は、精神薄弱者の場合には確かにあてはまるとはいいがたい。

「昇進の可能性」が少ないこと、「給料」が少ないこと、は特に勤続年数が長くなって一般労働者との格差が開いたときに深刻さを増す。このこと自体は処遇の問題であり早急に改善することは困難である。「会社の将来性」や「会社の経営方針」に満足することで代償させているのかもしれない。

就労の継続は、対人的要件（「上司」や「他者承認」）、自我関与的要件（「仕事に対する興味」や「能力を試す」）などに対する満足との関連が深い。

以上のように、仕事に対する満足度の評価は就労状況を理解する上で重要な枠組みであった。対象者を増やして得られた知見を検証することが今後の課題である。

【発達課題を検討する視点について】

「職業に就く」「職業生活を維持・継続する」という課題を達成するには、それが期待されるものであれ、やむを得ないものであれ、職業や社会的地位をめぐる志向や規範、行動モデルについて学習していかななくてはならない。そのための指導・援助の課題を明らかにする上で、発達の变化の様相を把握することは欠くことができない。

ここでは、就労レベルを支えるものとして「生活自立」を位置づけ、その課題達成の状況から発達の变化を検討することを試みた。その通勤寮からグループホームへの移行に関しては明らかになってきたが、通勤寮に移行するための課題やグループホームからアパート生活に移行するための課題については、今後の課題となっている。その際、生涯を通して「生活自立」に関する発達課題を明らかにすること、「いかなるタイミングで、どのような働きかけを行なうことが必要か」を検討すること、が必要である。

本報告書では、仕事の世界からの引退を目前にした年配者の生涯を振り返ったとき、全く経験できなかった出来事と、時期は遅れても経験した出来事とが明らかにされた。職位の上向移動という意味ではキャリアの形成は見いだされなかった。しかし、職業人として一人前になるという課題は達成されており、職業人らしく振る舞うことが精神的に自立することなど、生活自立の課題達成と表裏一体であることが示された。こうした生活設計の展開には、日常的・継続的に生活場面並びに就労場面において支援が必要であり、援助システムとして通勤寮がはたしている役割は大きい。

本調査研究では、以上のような知見が得られた。今後の課題として、さらに多くの事例を検討すること、特に在宅で就労していた人たちの経歴を検討することにより、職業生活設計支援のあり方を検討すること、があげられる。また、人生段階別にみると、職業的発達課題の構造を明らかにすることを通して、職業生活をスタートする際に必要な課題達成のための援助のあり方を検討すること、職業生活のからの引退を前後して生ずる援助の課題を明らかにすること、なども検討課題である。

資 料

事前調査票

事前調査票記入のための別添資料

「勤労者の職業生活設計に関する調査」調査票

秘

事例No. _____

作成年月日：平成 年 月 日

◇ 対象者

フリガナ			
氏名		性別	男・女
生年月日	昭和 年 月 日生	年齢	才
出身地	都道府県		

(注：ご本人がインタビューをお受けくださる場合には、お名前をお書きください)

重複障害	有・無 (重複障害の状況：)
知能指数	(知能検査の種類：)
病歴	

(注：病歴は、既往症の他に障害と関連する病気、事故等の特記してください)

◇ 家族構成

対象者との続柄	年齢	現況
父		
母		

◇ 家族との交流の状況

--

1. 経 歴

項 目	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	60	<才>
就学に関する経歴 学校関係（普・特・養護） 教護院 通園施設 実習，準備訓練													
就労に関する経歴 施設・作業所 通勤寮，グループホーム 職親 就職，離転職，退職													
家族に関する経歴 家族（親・きょうだい） 同居・別居													
健康に関する経歴 病 歴 人 院 老化現象													

2. 就労経験（施設・作業所も含む）について

項目	①：現在ついている仕事	②：貴寮で把握している最も昔の仕事	③：②の仕事の次についた仕事	④：③の仕事の次についた仕事	
a 勤め先の概要	勤め先の名称				
	勤め先の業種	業	業	業	
	従業員総数	名	名	名	
	障害者数	名	名	名	
	障害者に対する配慮の実際				
b 就労の内容と条件	開始時の年齢				
	仕事の内容				
	就労形態	正規・パート・嘱託	正規・パート・嘱託	正規・パート・嘱託	正規・パート・嘱託
	勤務時間	時間	時間	時間	時間
	残業の状況	週平均 時間	週平均 時間	週平均 時間	週平均 時間
	通勤時間	時間	時間	時間	時間
	通勤方法				
	給与形態	年齢給・能力給 固定給・時間給 日給月給・月給 ()	年齢給・能力給 固定給・時間給 日給月給・月給 ()	年齢給・能力給 固定給・時間給 日給月給・月給 ()	年齢給・能力給 固定給・時間給 日給月給・月給 ()
	給与月額	円	円	円	円
	その他の収入費目	円 ()	円 ()	円 ()	円 ()
	退職金の有無	有・無	有・無	有・無	有・無
有給休暇	年間 日	年間 日	年間 日	年間 日	
勤務状況 (遅刻・欠勤 その他)					

項目	⑤：④の仕事の次についた仕事	⑥：⑤の仕事の次についた仕事	⑦：⑥の仕事の次についた仕事	⑧：⑦の仕事の次についた仕事	
a 勤め先の概要	勤め先の名称				
	勤め先の業種	業	業	業	
	従業員総数	名	名	名	
	障害者数	名	名	名	
	障害者に対する配慮の実際				
b 就業の内容と条件	開始時の年齢				
	仕事の内容				
	就労形態	正規・パート・嘱託	正規・パート・嘱託	正規・パート・嘱託	正規・パート・嘱託
	勤務時間	時間	時間	時間	時間
	残業の状況	週平均 時間	週平均 時間	週平均 時間	週平均 時間
	通勤時間	時間	時間	時間	時間
	通勤方法				
	給与形態	年齢給・能力給 固定給・時間給 日給月給・月給 ()	年齢給・能力給 固定給・時間給 日給月給・月給 ()	年齢給・能力給 固定給・時間給 日給月給・月給 ()	年齢給・能力給 固定給・時間給 日給月給・月給 ()
	給与月額	円	円	円	円
	その他の収入費目	円 ()	円 ()	円 ()	円 ()
	退職金の有無	有・無	有・無	有・無	有・無
	有給休暇	年間 日	年間 日	年間 日	年間 日
	勤務状況 (遅刻・欠勤 その他)				

項 目		①：現在ついている 仕事			②：貴寮で把握してい る最も昔の仕事			③：②の仕事に次に ついた仕事			④：③の仕事の次に ついた仕事				
c 仕事に 対する 評価	c-1 選職の理由														
	c-2 選職の経緯 (相談や援助 の内容)														
	c-3 仕事に対する 満足の状況	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3		
		4	5	6	4	5	6	4	5	6	4	5	6		
		7	8	9	7	8	9	7	8	9	7	8	9		
10		11	12	10	11	12	10	11	12	10	11	12			
	13	14	15	13	14	15	13	14	15	13	14	15			
c-4 離職の理由	/			1	2	3	1	2	3	1	2	3			
				4	5	6	4	5	6	4	5	6			
				7	8	9	7	8	9	7	8	9			
				10	11	12	10	11	12	10	11	12			
				13			13			13					
c-5 離職の経緯 (相談や援助 の内容)	/														
d-1 姿勢の変化				1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3
				4	5		4	5		4	5		4	5	
d-2 持ち上げる力				1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3
				4	5		4	5		4	5		4	5	
d-3 課題の遂行 の状況	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3			
	4	5	6	4	5	6	4	5	6	4	5	6			
	7	8	9	7	8	9	7	8	9	7	8	9			
	10	11	12	10	11	12	10	11	12	10	11	12			
	13	14		13	14		13	14		13	14				
d-4 社会生活の 遂行	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3			
	4	5	6	4	5	6	4	5	6	4	5	6			
	7	8	9	7	8	9	7	8	9	7	8	9			
	10	11	12	10	11	12	10	11	12	10	11	12			
	13	14		13	14		13	14		13	14				

※c-3, c-4, d-1, d-2, d-3, d-4は、枠内の番号に〔○：できる〕〔×：それ以外〕をつけてください。

項 目		⑤：④の仕事の次について の仕事			⑥：⑤の仕事の次について の仕事			⑦：⑥の仕事の次について の仕事			⑧：⑦の仕事の次について の仕事		
c	c-1 選職の理由												
	c-2 選職の経緯 (相談や援助 の内容)												
	c-3 仕事に対する 満足の状態	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3
		4	5	6	4	5	6	4	5	6	4	5	6
		7	8	9	7	8	9	7	8	9	7	8	9
10		11	12	10	11	12	10	11	12	10	11	12	
	13	14	15	13	14	15	13	14	15	13	14	15	
c-4 離職の理由	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	
	4	5	6	4	5	6	4	5	6	4	5	6	
	7	8	9	7	8	9	7	8	9	7	8	9	
	10	11	12	10	11	12	10	11	12	10	11	12	
	13			13			13			13			
c-5 離職の経緯 (相談や援助 の内容)													
d 仕事の 遂行の 状況	d-1 姿勢の変化	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3
		4	5		4	5		4	5		4	5	
	d-2 持ち上げる力	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3
		4	5		4	5		4	5		4	5	
	d-3 課題の遂行	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3
		4	5	6	4	5	6	4	5	6	4	5	6
		7	8	9	7	8	9	7	8	9	7	8	9
		10	11	12	10	11	12	10	11	12	10	11	12
	13	14		13	14		13	14		13	14		
d-4 社会生活の 遂行	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	
	4	5	6	4	5	6	4	5	6	4	5	6	
	7	8	9	7	8	9	7	8	9	7	8	9	
	10	11	12	10	11	12	10	11	12	10	11	12	
	13	14		13	14		13	14		13	14		

※c-3, c-4, d-1, d-2, d-3, d-4は、枠内の番号に〔○：できる〕〔×：それ以外〕をつけてください。

項 目		①：現在について る仕事	②：貴寮で把握し ている最も昔 の仕事	③：②の仕事の次 について仕事	④：③の仕事の次 について仕事
e 仕事 の 遂 行 を 左 右 す る 条 件	e-1 働くことへの関心	a b c d e	a b c d e	a b c d e	a b c d e
	e-2 本人の希望進路	a b c d e	a b c d e	a b c d e	a b c d e
	e-3 職業情報の獲得	a b c	a b c	a b c	a b c
	e-4 経済生活の見通し	a b c d e	a b c d e	a b c d e	a b c d e
	e-5 身辺の自立	a b c	a b c	a b c	a b c
	e-6 症状の変化	a b c	a b c	a b c	a b c
	e-7 健康の自己管理	a b c	a b c	a b c	a b c
	e-8 勤務体制	a b c d	a b c	a b c	a b c
	e-9 本人をとりまく状況	a b c d	a b c d	a b c d	a b c d
	e-10 外 出	a b c d	a b c d	a b c d	a b c d
	e-11 交通機関の利用	a b c d	a b c d	a b c d	a b c d
	e-12 巧 緻 性	a b c	a b c	a b c	a b c
	e-13 上肢の筋力	a b c d	a b c d	a b c d	a b c d
	e-14 座位作業の持続	a b c	a b c	a b c	a b c
	e-15 立ち作業の持続	a b c	a b c	a b c	a b c
	e-16 言語的理解力	a b c d e	a b c d e	a b c d e	a b c d e
	e-17 話す能力	a b c d e	a b c d e	a b c d e	a b c d e
	e-18 読 解 力	a b c d e	a b c d e	a b c d e	a b c d e
	e-19 書く能力	a b c d e	a b c d e	a b c d e	a b c d e
	e-20 数的処理能力	a b c d e	a b c d e	a b c d e	a b c d e

※e-1～e-20は、枠内の記号のあてはまるもの1つに○をつけてください。

項 目		⑤：④の仕事の次 について仕事	⑥：⑤の仕事の次 について仕事	⑦：⑥の仕事の次 について仕事	⑧：⑦の仕事の次 について仕事
e 仕事 の 遂 行 を 左 右 す る 条 件	e-1 働くことへの関心	a b c d e	a b c d e	a b c d e	a b c d e
	e-2 本人の希望進路	a b c d e	a b c d e	a b c d e	a b c d e
	e-3 職業情報の獲得	a b c	a b c	a b c	a b c
	e-4 経済生活の見通し	a b c d e	a b c d e	a b c d e	a b c d e
	e-5 身辺の自立	a b c	a b c	a b c	a b c
	e-6 症状の変化	a b c	a b c	a b c	a b c
	e-7 健康の自己管理	a b c	a b c	a b c	a b c
	e-8 勤務体制	a b c d	a b c	a b c	a b c
	e-9 本人をとりまく状況	a b c d	a b c d	a b c d	a b c d
	e-10 外 出	a b c d	a b c d	a b c d	a b c d
	e-11 交通機関の利用	a b c d	a b c d	a b c d	a b c d
	e-12 巧 緻 性	a b c	a b c	a b c	a b c
	e-13 上肢の筋力	a b c d	a b c d	a b c d	a b c d
	e-14 座位作業の持続	a b c	a b c	a b c	a b c
	e-15 立ち作業の持続	a b c	a b c	a b c	a b c
	e-16 言語的理解力	a b c d e	a b c d e	a b c d e	a b c d e
	e-17 話す能力	a b c d e	a b c d e	a b c d e	a b c d e
	e-18 読 解 力	a b c d e	a b c d e	a b c d e	a b c d e
	e-19 書く能力	a b c d e	a b c d e	a b c d e	a b c d e
	e-20 数的処理能力	a b c d e	a b c d e	a b c d e	a b c d e

※e-1～e-20は、枠内の記号のあてはまるもの1つに○をつけてください。

3. 現在の日課

【日課表】

月曜から金曜まで

休 日

時 間	事 項

時 間	事 項

余暇の過ごし方

平 日	休 日

4. 年 齢

援助者からみた次の項目に該当すると思われる対象者の年齢

若い時期	() 才から () 才まで
働き盛りの時期	() 才から () 才まで
大人の男性 (女性)	() 才から
高齢の男性 (女性)	() 才から
基本的な生活習慣が身についた年齢	() 才
精神的に自立した年齢	() 才
経済的に自立した年齢	() 才
職業人として一人前になった年齢	() 才
この仕事でやって行こうと思う仕事を決めた年齢	() 才
老後の見通しを立てた年齢	() 才
余暇をうまく過ごせるようになった年齢	() 才
結婚する (した) 年齢	() 才
引退する予定の年齢	() 才

5. 援助者からみた生きがいや希望について

◇ 仕事について

◇ 余暇について

◇ 家族について

◇ 将来について

◆◆◆ ◆◆◆ ご協力ありがとうございました ◆◆◆ ◆◆◆

名 前 _____

右端の空欄に、○ × △ で評価してください

1. 時間	
起床・就寝の時刻を言える	
起床・就寝の時刻を守る	
出勤・退勤時刻を言える	
出勤・退勤時刻などを守る	
始業、終業、昼食などの合図にしたがう	
休憩時間（時～時まで、回数）を言える	
休憩時間に何をしているかを言える	
休憩時間に何をしたらいいかわからないことがある	
休日（先週の休日）には何をしていたかを言える	
休日（今度の休日）には何をしているかを言える	
休日に何をしたらいいかわからないことがあるか	
余暇や休日を楽しみにしているか	
自分の労働時間を言える	
自分の労働時間、休暇などの基本的労働条件を言える	
お正月の計画が言える	
5月の連休の計画が言える	
夏休みの計画が言える	
誕生日が何ヶ月先か言える	
何歳まで仕事をするかを言える	
2. 経済活動	
貨幣や紙幣が大切なものであることがわかる	
先生と一緒に簡単な買い物をする	
「これ」「ください」など、買い物に必要な言葉を使う	
「いくら」「高い」「安い」「おつり」など、買い物に必要な言葉を使う	
少額で決まった額の買い物なら一人でする	
簡単なおつりのある買い物をする	
日用品などのおよその値段がわかる	
価格の変動や高低がわかる	
値段の高い・安いを知り、上手な買い物をする	

2. 経済活動（続き）	
旅行先で、土産など自分で考えて買う	
先生と一緒に、自動販売機を利用する	
先生と一緒に、電車やバスの切符を買う	
自動販売機を利用する	
日常利用している電車やバスの切符を自動券売機等で買う	
10円、50円、100円などの貨幣の種類がわかる	
紙幣の種類がわかる	
物を買うのにお金が必要なことがわかる	
もらったこづかいを大切に使う	
生活にはお金が必要なことを知り、むだづかいをしない	
こづかいを使う 月単位か、週単位か、日単位か	月, 週, 日 (円)
こづかいを自分で考えて使う	
自分の賃金を言える	
賃金の使い道を知る（家計に必要な費目がわかる）	
家計に必要な経費の額がわかる	
予算をたてて、計画的に買い物をする	
貯金や預金の必要なことがわかる	
予算生活の必要性を理解し、計画的に貯金・預金をする	
簡単な金銭収支を記録する	
家計の収入・支出状況を知り、グループホームの経済計画に協力する	
勤労に対して、報酬があることがわかる	
お金や物などで公私の区別をする	
郵便局や銀行などの働きを知り、貯金や預金をする	
手続きができる	
利息がついていることがわかる	
利息の意味がわかる	
年金、健康保険、労災保険、失業保険などを知っている	
年金、健康保険、労災保険、失業保険などがわかる	

◆ 別 添 資 料 ◆

◇ c-3～d-4は、すべての項目に○か×のいずれかをつけてください。

c-3 仕事に対する満足の状況

- | | | |
|------------|-------------|------------|
| 1：上司, | 2：給料, | 3：他者承認 |
| 4：仕事の責任, | 5：仕事に対する興味, | 6：進歩の機会 |
| 7：能力を試す, | 8：アイデアを生かす, | 9：会社の経営方針, |
| 10：会社の将来性, | 11：昇進の可能性, | 12：労働条件, |
| 13：通勤条件, | 14：休暇, | 15：その他 |

c-4 離職の理由

- 1：役割過重,
- 2：適切な遂行基準の不明確さ,
- 3：つまらなすぎてやる気が起こらない,
- 4：役割拡散,
- 5：責任性,
- 6：物理的環境：温度や臭いだけでなく、作業の交代等を含む
- 7：給料、労働時間、休暇、通勤
- 8：地位の曖昧さ（正社員待遇にならない、昇進しない）
- 9：人間関係,
- 10：障害に起因すること,
- 11：家庭の事情,
- 12：病気や疲労などの身体的な問題,
- 13：その他

d-1 姿勢の変化

- 1：椅子などに手で身体を支えないで、両膝立ちを数分間は保つ。
- 2：手で身体を支えないで、片膝立ち（どちらでもよい）を数分間は保つ。
- 3：着席して、机にうつ伏せる。
- 4：着席して、上半身を右左に回す。
- 5：腰をかがめる。または、着席して足元の物を拾う。

d-2 持ち上げる力

- 1：床にある約10kgの荷物（14インチのテレビくらいの大きさ）を膝まで持ち上げる。
- 2：床にある約10kgの荷物を、ふらつかないで机の高さに持ち上げる。
- 3：机の上の約10kgの荷物を、ふらつかないで肩の高さに持ち上げる。
- 4：机の上の約10kgの荷物を、ふらつかないで頭の上まで持ち上げる。
- 5：机の上の約10kgの荷物を、押したり引いたりする。

d-3 課題の遂行

- 1 : 課題の進み具合に注意したり, または用具などを準備する。
- 2 : ミスや故障を連絡したり, または進行の状況などを報告する。
- 3 : 安全に注意したり, または用具の正しい使い方を守る。
- 4 : 能率にムラがない。
- 5 : 失敗が少なくて確実さがある。
- 6 : 慣れれば能率や確実さの向上が期待できる。
- 7 : 積極的に取り組む。
- 8 : 決まり切ったことなら指示しなくてもする。
- 9 : 気が散る状況でも周囲に影響されない。
- 10 : 指示されたことは目を離していても自分でやり遂げる。
- 11 : 理解できないことがあれば自分から尋ねる。
- 12 : 注意されたときには素直に従う。
- 13 : 努力するが, できないときには人の援助を素直に受け入れる。
- 14 : 期待に答えられないときに, 障害を理由にした弁解をしない。

d-4 社会生活の遂行 (仕事に限らないで, 普段の生活で見られる活動をいう)

- 1 : 休んだり遅刻する時には, 本人 (または保護者) が事前に届ける。
- 2 : 時間の約束やいろいろな規則を守って行動する。
- 3 : 規則正しい生活習慣をほぼ身につけている。
- 4 : 反社会的な問題行動を起こさない。
- 5 : 次の日に影響しない程度に余暇を過ごす。
- 6 : ささいなことで感情にとらわれることは少ない。
- 7 : 自分勝手な行動を取らない。
- 8 : 仲間と共同して行動できる。
- 9 : 他の人の迷惑になることはしない。
- 10 : 初対面の人にも挨拶や返事ができる。
- 11 : 見苦しい格好やだらしない服装をしないよう心がけている。
- 12 : 危険な場所や状況を適切に判断して自分で身を守る。
- 13 : 収入に合わせて金銭の支出を管理する。
- 14 : 人に尋ねたりして簡単な書類手続きができる。

◇ e-1～e-20は、あてはまる項目を1つだけ選んで○をつけてください。

e-1 働くことへの関心

- a : 自分の将来のことに関心がなく、聞いても答えられない。相談の目的を理解していない。
- b : 関心はあるが、具体性がなくて漠然とした内容である。せいぜい目の前のことに関心があるくらいである。
- c : 働いたり訓練を受けることを希望するが、自発的であるとはいえない。働かなくてはいけないことを理解しているようには見えない。
- d : 働かなくてはいけないことについては理解している。だが、具体的に話す内容は、自己の能力を理解した上でのことではなく、現実性にとぼしい。
- e : 進路や仕事を具体的に話し、その内容の理解が適切である。自己の能力を理解した上で希望しており、現実性がある。

e-2 本人の希望する進路

- a : 進路に無関心で、現状に満足している。進学するものと思っ込んでいる。
- b : 関心はあるが、進路を選択するまでには至らない。働くことを希望していても、施設や作業所と企業の区別ができない。
- c : 職業訓練校の受講や、施設・作業所の入所などを希望する。
- d : 就職（復職）を希望するが、そのための見通しを立てたり、実際的な行動をしていない。
- e : 就職（復職）を希望し、それを達成するための計画を立てたり、実際の行動をしている。

e-3 職業情報の獲得（教育訓練の進路や、仕事・復職についての情報など）

- a : 関心がない。相談で指摘されるまで、情報を集めたことがない。
- b : 関心はあるが、情報を得る方法を知らないために、あまり集めたことがない。
- c : 関心があり、人に相談するばかりでなく、自分でも情報を得ようとして行動する。

e-4 経済生活の見通し

- a : 身の回りの品物の値段や、毎日の生活に必要な経費についてあまり知らない。
- b : 身の回りの品物の値段や、毎月の経費については知っている。だが、生計を維持する方法までは考えたことがない。
- c : 生活に必要な経費は、年金や援助などで賄えらと考えている。
- d : 生計を補助するくらいの収入があれば、年金や援助などを加えて生活できると考えている。
- e : 生活に必要な経費は、自分で賄わなければならないと考えている。

e-5 身の自立（身の動作は、食事・トイレ・衣服のの着脱・整容・入浴をいう）

- a : どれかひとつの身の動作でも、全面的な手助けが必要である。一人でも、時間がかかり過ぎたり疲労してしまう。手助けを求めるのが習慣になっている。
- b : すべての身の動作を一人で行えるが、中には、時間がかかり過ぎる・仕上がりが十分でない・失敗する、こともある。

c : すべての身辺動作を、障害のない人の2倍以内の時間で、仕上げるができる。

e-6 症状の変化

a : 現在の状態よりも悪くなると予測（診断）され、その進行は比較的速い（約1年後には、現在の状態よりも悪くなる）。

b : 現在の状態は固定したものではなくて、比較的ゆるやかに（5年ほど先には、現在の状態よりも悪くなる）進行すると予測（診断）されている。予測できないか、不明である。

c : 症状は固定している。多少の変動はあっても5年ほど先も現在の状態が続く。回復（向上）すると予測（診断）される。

e-7 健康の自己管理

a : あまり清潔でない。風邪や病気に気を付けているようには見えない。

b : 回りの人の指示や手助けによって、清潔を保ったり病気にならないようにしている。

c : 自分で、清潔を保って病気に気を付けている。

e-8 勤務体制

a : 医療措置や体力などから見て、勤務時間を制約することが望ましい。

b : 医療措置や体力などから見て、毎月の勤務日数の中で2日以上の休暇を必要とする。

c : 通常の7～8時間勤務は可能である。

d : 夜勤や残業なども可能である。

e-9 本人を取り巻く状況（家族や身寄り、地域の支援体制などをいう）

a : 家族や身寄りがいなかったり、いても交流がない。回りの人の協力や、地域の支援体制を期待できない。居住する場所がない。

b : 身寄りがいても積極的な協力は無い。囲りの人たちの関心が薄くて、本人が必要とする場合でも積極的な協力をするというほどではない。

c : 身寄りや囲りの人たちの協力はあがるが、ときには必要以上に干渉的（過保護）だったり、支援不足の傾向にあって、本人の発達に良好とはいえない。

d : 本人が必要とする時に、それに応じた適切な協力を身寄りや囲りの人たちから期待できる。

e-10 外出

a : 練習をしても一人では困難で、いつも手助けが必要である。

b : 通い慣れた特定の場所であれば、一人で行くことができる。

c : 通勤できるくらいの所に初めて行く場合には、手助けが必要である。だが、練習を数回すれば、突発の事態がない限りは、一人で行くことができる。

d : 通勤できるくらいの場所に初めて行く場合でも、一人で行くことができる。突発の事態でも適切に対応できる。

e-11 交通機関の利用（公共的な交通機関をいう）

a : 一人で利用することはできないので、いつも手助けが必要である。

- b : タクシーや乗用車（改造車をふくむ）なら一人で利用できるが、バスや電車などはできない。
- c : バスや電車でも一人で利用できる。だが、決まった行き先に限られていたり、混雑時では危険なことも予想されて、制約がある。
- d : 制約はなく、交通機関は一人で利用できる。
- e-12 巧ち性（ここでいう巧ち性は両手協応動作がなめらかで狙準動作も正確な場合をいう）
- a : 巧ち性がなく、同時に、身体全体の動作にも滑らかさが見られない。
- b : 巧ち性と身体全体の動作の滑らかさの、どちらかに問題がある。
- c : 巧ち性と身体全体の動作の滑らかさの、どちらにも問題はない。
- e-13 上肢の筋力（着席した状態で利き手について見る）
- a : 腕を、肩の高さに持ち上げて1分くらいは保持できる。
- b : 机の上の約2kgの荷物（広辞苑くらいの大きさ）を、手で押ししたり引いたりできる。
- c : 約2kgの荷物を、胸の高さに1分くらいは保持できる。
- d : 約2kgの荷物を、頭の上に1分くらいは保持できる。
- e-14 座位作業の持続
- a : 姿勢を変えたり短い休憩をしても、軽作業を半日も持続できない。
- b : 姿勢を変えたり短い休憩をすれば、半日は軽作業に耐えることができる。
- c : 姿勢を変えたり短い休憩をすれば、昼の休憩をはさんで7～8時間は軽作業に耐えることができる。
- e-15 立ち作業の持続
- a : ときどき着席したり短い休憩をしても、半日も持続できない。立ち作業はできない。
- b : ときどき着席したり短い休憩をすれば、半日は耐えることができる。
- c : ときどき着席したり短い休憩をすれば、昼の休憩をはさんで7～8時間は耐えることができる。
- e-16 言語的理解力
- a : 実物を見せる、やってみせる、ジェスチャーで示す、などのいろいろな手段と共に話しかければ、短い文や単語くらいは理解できる。
- b : 雑談程度の内容でも、繰り返して言ったり、いろいろな手段を交える必要がある。
- c : 普段の会話に何とかついて行けるが、重要な事は繰り返して念を押す必要がある。
- d : 普段の会話にはついて行けるが、複数の人との話し合いになると困難である。
- e : 問題はない。抽象的・論理的な内容になると、困難なこともある。
- e-17 話す能力
- a : ごく限られた単語を使ったり、誤りの多い話し方をしながらも、何とか自分の欲求や望みだけは伝える。聞き手が繰り返して尋ねたり、いろいろと推測する必要がある。
- b : 単語を羅列することによって、自分の考えを伝えることができる。
- c : 雑談程度の会話の場合でも、断片的な単語だけで話すことが多い。

d : 普段の会話ならついて行けるが、文法的な間違いをしたり、適切な句や単語を使えないことがある。

e : 問題はない。論理的内容や込み入った話になると、まとまりを欠くことがある。

e-18 読解力

a : 身の回りの品物について、文字と絵や実物との対応はできるが、読むだけで理解できる単語はごく少ない。

b : 普段からよく使う単語については、読んで理解できる。

c : 身の回りのできごとについて、簡単な表現で書いてあれば、200字くらいの長さでも読んで理解できる。

d : 手紙や日記程度の内容であれば、1000字くらいの長さでも読んで理解できる。

e : 問題はない。新聞の社会面程度の内容でも、時間をかけて読めば理解できる。

e-19 書く能力

a : 自分の名前などの、ごく少数の限られた単語（漢字でもひらがなでもよい）しか書けない。

b : 普段からよく使う単語については、書くことができる。

c : 身の回りのできごとであれば、簡単な表現で200字くらいの文を書くことができる。

d : 手紙や日記程度の内容であれば、1000字くらいの長さでも書くことができ、文字や文法の誤りも少ない。

e : 問題はない。新聞の社会面程度の内容を書くときに、まとまりを欠く表現をすることがある。

e-20 数的処理能力

a : 普段の生活で必要となる数の理解（時計の読み取り、硬貨や札の金額、品物を数えるなど）ができない。数の概念ができていても、10まで数えることが困難である。

b : 時計の読み取りや金銭の計算はできる。100くらいまでは数えられる。一桁の加減算はできる。

c : 二桁の加減算をすると、間違いが多い。

d : 二桁の加減算はできるが、乗除算になると間違いが多い。

e : 問題はない。二桁の四則演算で、ときどき間違えることがある。

◇ 日課表に関しては、起床・朝食・出勤準備・出勤・通勤・仕事の始業から 終業まで・通勤・帰寮・夕食・自由時間・入浴・就寝等について、次のような書き方を参考にしてください。

<p>往 路 AM 6:00</p> <p>6:30 徒歩</p> <p>6:42 I町バス停 6:44 バス乗車</p> <p>7:03 H駅バス停下車 (終着駅) (乗り換え)</p> <p>7:20 乗り換えバス乗車 バス</p> <p>7:33 徒歩 7:40 工場通用門着</p>	<p>起 床</p> <p>出 勤</p> <p>↓</p> <p>↓</p> <p>↓</p> <p>↓</p> <p>↓</p> <p>↓</p>	<p>1)目覚時計をセットしておき、起床</p> <p>2)職員がつくってくれる朝食をとり、歯みがき、着がえをすませます。</p> <p>3)定刻どおり出勤。</p> <p>4)バス停まで約1kmの坂道を普通の速さで歩く。</p> <p>5)後方より車の気配を感じるたびにふり返る。</p> <p>6)通勤サラリーマン7~8人の後に並ぶ。</p> <p>7)順序どおり乗込み、定期をみせる(相鉄バス市内全線用)</p> <p>8)乗客20名ほど、降車ドアより2つ後位座席にすわる。</p> <p>9)途中、乗客増し、座席いっぱいになる。周囲は普通の状態。</p> <p>10)乗り換えバスを待つ。1台前の同僚T君(K通勤寮)と会う。少しあいさつする程度。</p> <p>11)乗り換えバスの到着が遅れ、Y君、時刻表と時計を見比べている。</p> <p>12)乗客4人、運転席後にT君、そのうしろにY君が並んで座る。2人とも話せず。</p> <p>13)バス下車、両名やや足早やに前後して歩きはじめ、工場までの道のりを右、左に小刻みに折れ近道する。</p>
		<p>14)ダンボールを10枚ずつ束ね機械でしぼる作業工程。</p> <p>15)このところ残業が続き疲れている。5:30退社の予定であったが、急ぎの仕事が入り、今日も残業。6:52終了。</p> <p>16)更衣室で着がえ、Y君は比較的スムーズ、T君は緩慢。</p> <p>17)工員がふざけてT君のロッカーネームを読ませていた。T君読めず、その間Y君だまって着がえを済ませ、事務所でT君を待つ。事務員と少し社内旅行について話す。</p> <p>18)5分後、T君事務所に来る。Y君がT君のタイムカードも押し退社。</p>
<p>帰 路 PM 6:35</p> <p>6:44 Nバス停着</p> <p>6:46 バス乗車</p> <p>7:00 Hバス停下車</p> <p>7:05 乗り換えバス停着</p>	<p>退 社</p> <p>↓</p> <p>↓</p> <p>↓</p> <p>↓</p>	<p>19)通用門より退社。往路と別に一つ手前のバス停まで歩く。</p> <p>20)両名話せず、足早にT君歩きながらタバコを吸う。車がかかるも気にせず進行。</p> <p>21)Y君は慎重に必ず自動車を確認。</p> <p>22)Y君、ときどきバス停までの途中、雑貨店でパン、ジュースを買う。帰寮後の夕食までもたない。</p> <p>23)Y君、時計とバスの時刻表を見合わせ時間を確認、変更前の時刻表をはっきり覚えており、時間差を説明。</p> <p>24)乗客3名。往きのバスと同じ座席で座る。</p> <p>25)乗り換えのバス停付近でT君が降車ブザーを押す。</p> <p>26)終着手前のバス停で下車、別のバスに乗り換える。この方が時間の短縮になるとY君が考え出した。</p> <p>27)Y君、時計を見ながらバスの行先を見分ける。時間の遅れを指摘。</p>

土曜日

9:10 グループ別
} ホームルーム
10:30 サークル活動
} 11:45

午後自由時間

22:00 消 燈

日曜日

8:00 起 床
8:45 朝 食
9:30 清 掃
} 10:00 自由時間
13:00 散 歩
} 15:00

(資料出所: ソーシャルワーク紀要第1号「障害者の社会的自立に関する基礎的研究」
神奈川県匡済会 1986)

勤労者の職業生活設計に関する調査（抜粋：本報告書に関連する項目のみ）

問1. 次のような言葉でいわれる人は、およそ何才くらいだと思いますか。

（ ）に年齢をお書きください。

1. 子 ども () 才まで
2. 若い男性 () 才から () 才まで
3. 若い女性 () 才から () 才まで
4. 大人の男性 () 才から
5. 大人の女性 () 才から
6. 中年の男性 () 才から () 才まで
7. 中年の女性 () 才から () 才まで
8. 高齢の男性 () 才から
9. 高齢の女性 () 才から
10. 働き盛りの男性 () 才から () 才まで
11. 働き盛りの女性 () 才から () 才まで

問6. 人は年令にふさわしくないと、まわりから何かと言われることがあります。では、次のようなことについて、まわりから言われるのは、いったい何才くらいからだと思いますか。

また、まわりの意見とは別に、あなたがそのことをするのは、何才くらいでしょうか。次の①から⑩までのそれぞれについて、あてはまる番号に○をつけ、（ ）に年令をお書きください。

なお、あなたが男性なら男性のことを、女性なら女性のことを考えて教えてください。

- ① a. 「いつまでも精神的に自立しないのはよくない」とまわりから言われ始める年令は、
1. およそ () 才からである
 2. まったく見当がつかない
 3. そういう年令はない
- b. では、あなた自身が「精神的に自立した（自立する）」年令は、
1. およそ () 才だった / () 才からである
 2. そういう年令は、いまのところ、わからない
 3. 自分には関心がない
- ② a. 「いつまでも経済的に自立しないのは、よくない」とまわりから言われ始める年令は、
1. およそ () 才からである
 2. まったく見当がつかない
 3. そういう年令はない

- b. では、あなた自身が「経済的に自立した（自立する）」年齢は、
1. およそ（ ）才だった／（ ）才からである
 2. そういう年齢は、いまのところ、わからない
 3. 自分には関心がない
- ③ a. 「いつまでも就職しないのは、よくない」とまわりから言われ始める年齢は、
1. およそ（ ）才からである
 2. まったく見当がつかない
 3. そういう年齢はない
- b. では、あなた自身が「はじめて就職した」年齢は、
1. およそ（ ）才だった
- ④ a. 「就職して何年もたつのに、職業人としてのあり方が身につかないのは、よくない」とまわりから言われ始める時期は、
1. およそ、就職後（ ）年目である
 2. まったく見当がつかない
 3. そういう時期はない
- b. では、あなた自身の「職業人としてのあり方が身についた（身につく）」時期は、
1. およそ、就職後（ ）年目だった／（ ）年目である
 2. そういう年齢は、いまのところ、わからない
 3. 自分には関心がない
- ⑤ a. 「いつまでも転職をくり返すのはよくない」とまわりから言われ始める年齢は、
1. およそ（ ）才からである
 2. まったく見当がつかない
 3. そういう年齢はない
- b. では、あなた自身が「もう転職をしない」と思った（思う）年齢は、
1. およそ（ ）才だった／（ ）才からである
 2. そういう年齢は、いまのところ、わからない
 3. 自分には関心がない
- ⑥ a. 「いつまでも結婚しないのは、よくない」とまわりから言われ始める年齢は、
1. およそ（ ）才からである
 2. まったく見当がつかない
 3. そういう年齢はない
- b. では、あなた自身が「結婚した（結婚する）」年齢は、
1. およそ（ ）才だった／（ ）才からである
 2. そういう年齢は、いまのところ、わからない
 3. 自分には関心がない

- ⑦ a. 「子どものしつけに責任をもたないのはよくない」と親が言われるのは、
子どもの年令でいうと
1. およそ（ ）才までである
 2. まったく見当がつかない
 3. そういう年令はない
- b. では、あなた自身が「子どものしつけ」に責任をもつのは、
子どもの年令で答えると、
1. およそ（ ）才までである
 2. そういう年令は、いまのところ、わからない
 3. 自分には関心がない
- ⑧ a. 「いつまでも地位や肩書がないのは、よくない」とまわりから言われ始める年令は、
1. およそ（ ）才からである
 2. まったく見当がつかない
 3. そういう年令はない
- b. では、あなた自身が「地位や肩書を持つ（持った）」年令は、
1. およそ（ ）才からである／（ ）才だった
 2. そういう年令は、いまのところ、わからない
 3. 自分には関心がない
- ⑨ a. 「余暇(自由な時間)をうまく過ごせないのは、よくない」とまわりから言われ始める年令は、
1. およそ（ ）才からである
 2. まったく見当がつかない
 3. そういう年令はない
- b. では、あなた自身が「余暇をうまく過ごせる（過ごせるようになった）」年令は、
1. およそ（ ）才からである／（ ）才だった
 2. そういう年令は、いまのところ、わからない
 3. 自分には関心がない
- ⑩ a. 「ある年令になったら、老後の準備をしていないのは、よくない」とまわりから言われ始める年令は、
1. およそ（ ）才からである
 2. まったく見当がつかない
 3. そういう年令はない
- b. では、あなた自身が「老後の準備をする（準備をした）」年令は、
1. およそ（ ）才からである／（ ）才だった
 2. そういう年令は、いまのところ、わからない
 3. 自分には関心がない

調査研究報告書 No.6

精神薄弱者の職業経歴に関する研究
—通勤寮利用者の事例が示すこと—

編集・発行 日本障害者雇用促進協会
障害者職業総合センター ©
〒261 千葉県美浜区若葉3-1-3
TEL 043-297-9000 (代表)

発行日 1994年12月

印刷・製本 三陽工業株式会社
